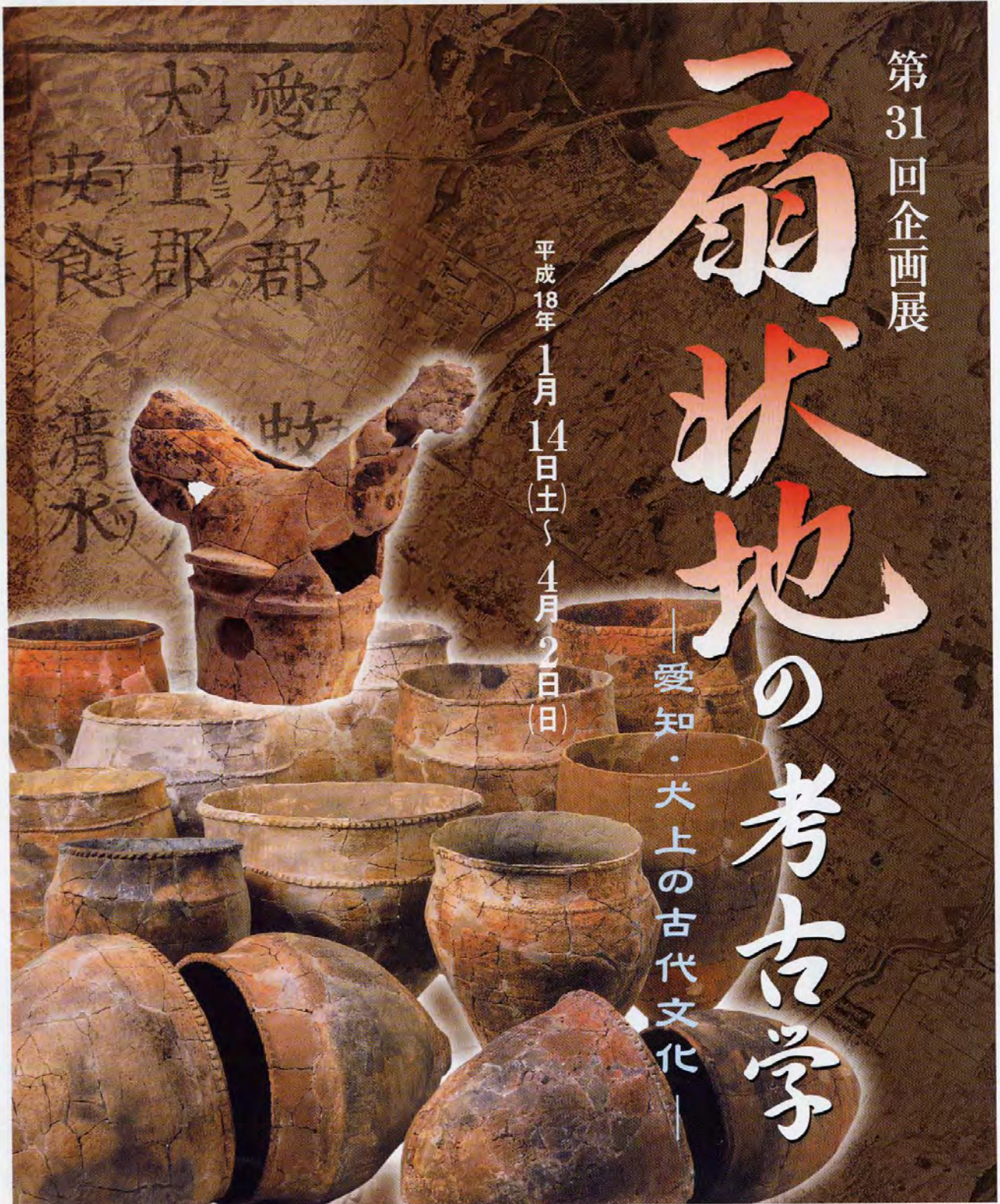


# おおてみち

## 第54号

平成18年(2006年)1月14日  
滋賀県立安土城考古博物館



第31回企画展

# 扇状地の考古学

平成18年1月14日(土) ~ 4月2日(日)

愛知・犬上の古代文化

## 扇状地の考古学

— 愛知・犬上の古代文化 —

かつて、愛知川と犬上川はしばしば氾濫を起こしました。また、この二本の川によって形成された広大な扇状地は、保水力が低く、水田には必ずしも適していませんでした。しかし、人々は絶え間ない努力と工夫によって開発を続け、ついにはこの地を現在見るような豊かな生産力を誇る地域へ生まれ変わらせたのです。そして愛知郡・犬上郡で発見される遺跡の数々は、そういった先人たちの暮らした努力の足跡なのだといえるでしょう。

本展では、出土資料を中心に、写真や図版パネルを用い、愛知郡・犬上郡で行われた発掘調査成果を紹介します。特に、本格的な開発が始まる前段階である縄文時代と、生産力が安定して在地勢力が力を持ち始めた古墳時代を中心に、愛知川・犬上川と深く関わりながら扇状地上に展開した古代文化の姿を追っていきます。



多賀町植崎29号噴出土  
鞘尻金具

### 主な展示資料 (□は県指定文化財)

- 松原内湖遺跡出土 篋状木製品 (滋賀県立琵琶湖博物館蔵)
- 小川原遺跡出土遺物 (滋賀県教育委員会蔵)
- 磯山城遺跡出土遺物 (米原市教育委員会蔵)
- 福満遺跡出土遺物 (彦根市教育委員会蔵)
- 土田遺跡出土遺物 (多賀町教育委員会蔵)
- 塚原古墳群出土遺物 (甲良町教育委員会蔵)
- 上蚊野古墳群出土遺物 (秦荘町歴史文化資料館蔵)
- なます遺跡出土遺物 (愛知川町教育委員会蔵)
- 小八木廃寺出土遺物 (東近江市湖東歴史民俗資料館蔵)

### 関連行事

- 遺跡報告会「愛知・犬上の最近の調査から」  
日時：平成一八年一月一五日(日)
- 博物館講座「近江の古墳文化について」  
日時：平成一八年一月二二日(日)  
講師：田中勝弘氏(滋賀県文化財保護課参事)
- 博物館講座「安土城の惣構と城下町」  
日時：平成一八年二月一九日(日)  
講師：近藤 滋氏(安土城郭調査研究所長)
- 博物館講座「近江古代豪族の世界」  
日時：平成一八年三月一九日(日)  
講師：大橋信弥(当館次長)
- ※いずれも会場は当館セミナールームにて  
午後一時三〇分～午後三時  
定員は一四〇名(当日先着受付順、参加無料)
- 史跡案内「愛知郡の史跡を歩く」  
日時：平成一八年三月二二日(日)

開館時間：午前九時～午後五時

(ただし入館は午後四時三〇分まで)

入館料：大 人三五〇円(二八〇円)  
高大生二五〇円(二〇〇円)  
小中生一五〇円(一二〇円)

※( )は二〇人以上の団体料金です。  
※「信長の館」との共通券もあります。

休館日：月曜日及び休日の翌日

### (財) 滋賀県文化財保護協会調査整理課通信

#### 黒色土器と土師器の椀

平成一七度の整理調査から調査整理課では、平成一六年度県道改築事業に伴う野洲市大篠原西遺跡の整理調査を行っています。大篠原西遺跡では、鎌倉時代の東山道沿いの集落の跡が見つかり、たくさんの土器が出土しました。この中には、鎌倉時代の湖東から湖南地域にかけて広く分布する黒色土器と呼ばれる椀が多く含まれています。これとともに全く同じ形や作り方をしながら、黒くない土師器の椀も一緒に出土しています。



この土師器の椀は旧野洲町内、特に野洲市富波から永原にかけての遺跡から集中して出土しています。黒色土器が広く湖東から湖南地域まで出土するのに対して、土師器の椀は大篠原西遺跡周辺以外の湖南地域ではほとんど出土していません。このように、大篠原西遺跡で出土した黒色土器と土師器の椀は、旧野洲町域の鎌倉時代の集落における日常の道具のあり方をよく示しています。

## 収蔵資料紹介

### 織田信長朱印状

天正五年（一五七七）五月一日付

津田利右衛門尉宛

二九、二cm×四五、八cm

信長は、岐阜を本拠地とした永禄一〇年（一五六八）一月から、天下統一の意思をこめた「天下布武」の朱印を使い始めます。史料によれば、金銅で作られたというこの朱印は、TPOにより三種類ありました。「天下布武」の文字を楕円で囲んだもの、馬の蹄の形で囲んだもの、二匹の龍で囲んだものの三種類です。楕円印は信長が最初に使った印で、永禄一三年三月頃から馬蹄印に変わります。馬蹄印は信長が死ぬまで使い続けられ、黒い印でも同じ形が使われました（黒印は返信や比較的簡単な文書に用いられたようです）。この二種の印は、捺された文書が多く（百を越えます）残っているのですが、三番目の龍印は、十二通しか残っていません。馬蹄印と平行して使われているのですが、使い分けの基準はよく分かっていません。信長が特別と思った際に用いられたのでしょうか。

写真の朱印状は、龍印の中でも最も古い年紀を持つものです。上山城（現京都府南部）

当尾で行われた指出検地の結果、隠田が見つかったもので、これについて早急に取り調べるよう、代官の津田利右衛門尉に命じたものです。「指出」は土地や収穫高の一覧を提出させて田畠の収穫高を把握していく検地ですが、信長の土地支配の様子を知ることができません。龍印のかなり初期の使用例なので、試しに自分の領地で使ってみたのかも知れませんね。

（高木叙子）



## 安土城郭調査研究所通信

### 史跡観音寺城跡の調査整備にむけて

観音寺城は宇多源氏の系譜を引く近江守護佐々木六角氏の居城です。標高四三二mの山頂から南斜面の山腹にかけて鱗状に広がる郭群は、見事な石垣で築造されています。

現在の観音寺城跡の中心部には西国三十三所観音霊場札所の観音正寺があります。古代から続くこの寺の坊を城塞として利用しながら、観音寺城は一五世紀中葉、後葉頃の戦乱のさなかに拡大整備されたと考えられます。そして、織田信長の近江侵攻によって永禄一年（一五六八）に開城し、まもなく廃城したようです。

中世の山城としては卓越した規模をもち、安土城に先駆けて総石垣で作り上げられた観音寺城跡の姿は、中世近江の山城の頂点をなす城としてふさわしいものです。南麓の石寺は全国最初の「楽市」が開かれた場所として有名で、城下町であったことを示す地名や遺構が現在も残されています。

滋賀県安土城郭調査研究所では、史跡観音寺城跡の保存計画を策定中です。そして、多くの方にこの優れた歴史遺産を活用していただくように、調査と整備に向けて準備を進めています。



# 博物館の主な催し

4 月	3 月	2 月	1 月	月
1月14日～4月2日 第31回企画展 「扇状地の考古学—愛知・犬上の古代文化—」				展示
<p>22日(土) 6月4日(日) 春季特別展「吾、天下を左治す！大王と豪族」(仮)</p> <p>23日(日) 春のお茶会 (当日受付、100名) 時間：午前10時30分～午後3時 場所：当館敷地内 会費：500円(実費)</p>	<p>19日(日) 博物館講座「近江古代豪族の世界」 (当日受付、140名) 講師：大橋信弥(当館次長) 時間：午後1時30分～午後3時 場所：当館セミナールーム 参加費：無料</p> <p>12日(日) 史跡案内「愛知郡の史跡を歩く」 (豊満神社・勝堂古墳群など) 定員：50名(往復ハガキで申し込みが必要) 時間：午前10時～午後3時(予定) 集合：近江鉄道愛知川駅 参加費：無料</p>	<p>19日(日) 博物館講座「安土城の惣構と城下町」 (当日受付、140名) 講師：近藤滋氏(滋賀県安土城郭調査研究所長) 時間：午後1時30分～午後3時 場所：当館セミナールーム 参加費：無料</p>	<p>22日(日) 博物館講座「近江の古墳文化について」 (当日受付、140名) 講師：田中勝弘氏(県文化財保護課参事) 時間：午後1時30分～午後3時 場所：当館セミナールーム 参加費：無料</p> <p>15日(日) 遺跡報告会「愛知・犬上の最近の調査から」 (当日受付、140名) 時間：午後1時30分～午後3時 場所：当館セミナールーム 参加費：無料</p>	博物館の行事

## あの遺跡は今！ パート1 埋蔵文化財整理調査中間報告会開催しレポート

平成一七年一月二〇日に開催された「あの遺跡は今！パート1 埋蔵文化財整理調査中間報告会」では、約五二〇人の方々が普段は回廊から窓越しでご覧いただいている整理作業室内に足を運ばれ、遺跡から出土した土器が復元される様子や、石器や木製品の実測作業などを間近に見学していただきました。

この催しは、滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会が博物館内で行っている埋蔵文化財整理調査の成果を公開する新しい試みで、発掘調査の時に新聞やテレビで話題となった遺跡のその後をお伝えしようとするものです。

当日は調査員による整理調査の中間報告や復元修復した縄文丸木舟の解説、整理作業室の特別公開、出土品の展示に加えて、整理作業の体験コーナーや縄文丸木舟との記念撮影コーナーなども用意し、子供たちにも埋蔵文化財に親しんでいただくことができました。

### 次回予告

「あの遺跡は今！パート2

埋蔵文化財整理調査報告会」

平成一八年二月二六日(日)

一〇時三〇分から

一五時一〇分まで



おおてみち 第54号  
平成18年(2006年)1月14日発行

編集・発行 滋賀県立安土城考古博物館  
〒521-1311 滋賀県蒲生郡安土町下豊浦6678 TEL 0748-46-2424  
E-mail: gakupei@azuchi-museum.or.jp URL http://www.azuchi-museum.or.jp